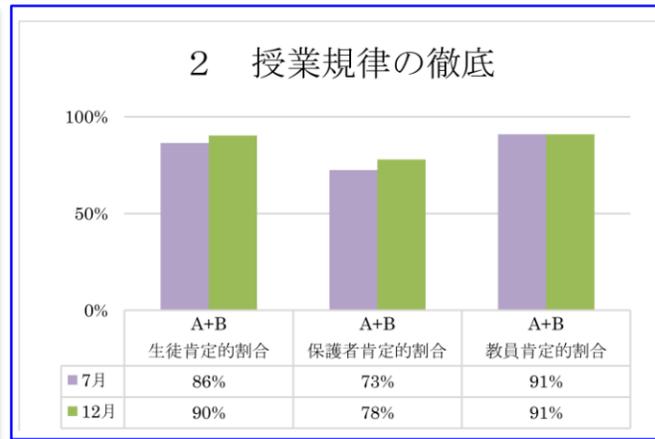
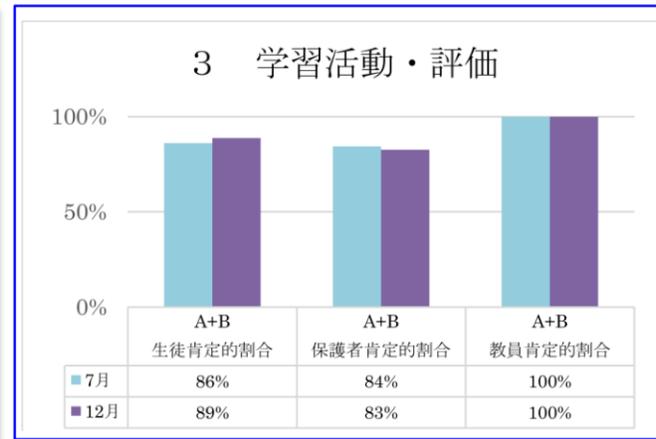


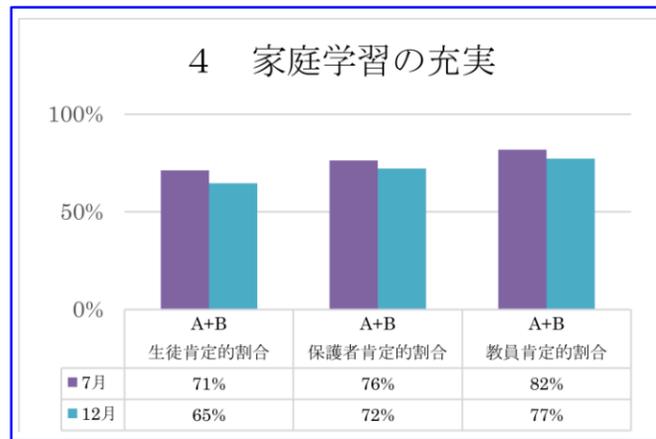
【分析】
生徒・保護者とポイントは減少となった。総括単元テストの日程が分かりにくいという声があるため、3学期はマチコミメールにて日程を配信する。



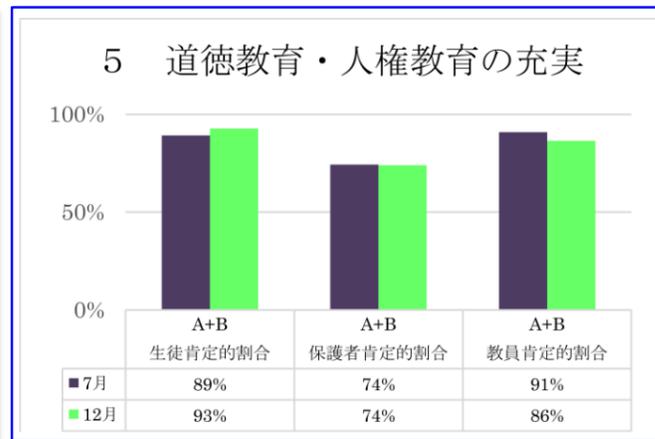
【分析】
保護者5ポイントの上昇があった。今年度、授業参観も多く、授業規律について理解が進んだことが結果に反映された。引き続き行っていく。



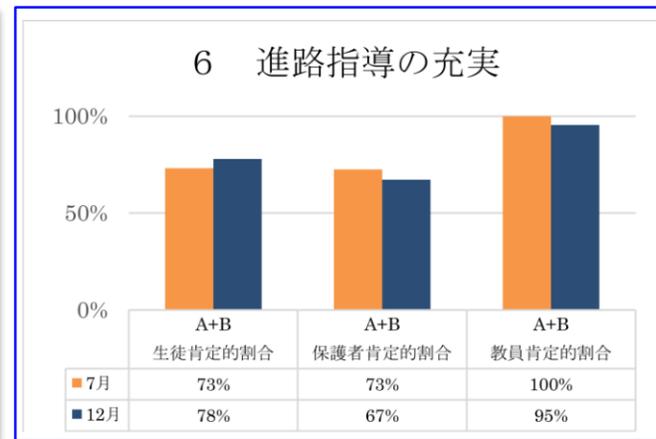
【分析】
生徒3ポイントの上昇があった。1人1台端末を使用しながら、授業へ積極的に参観する姿があった。自己との対話も進んでいる。



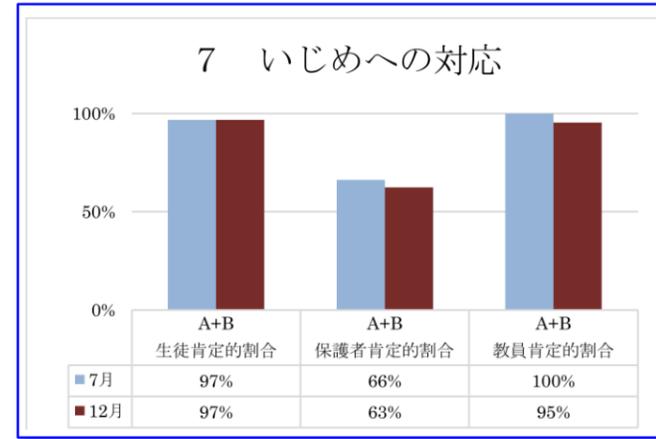
【分析】
生徒・保護者・教員の全対象者でポイントの減少があった。家庭学習記録シートから家庭学習時間の確保はできているが、質を伴わないことが報告されている。



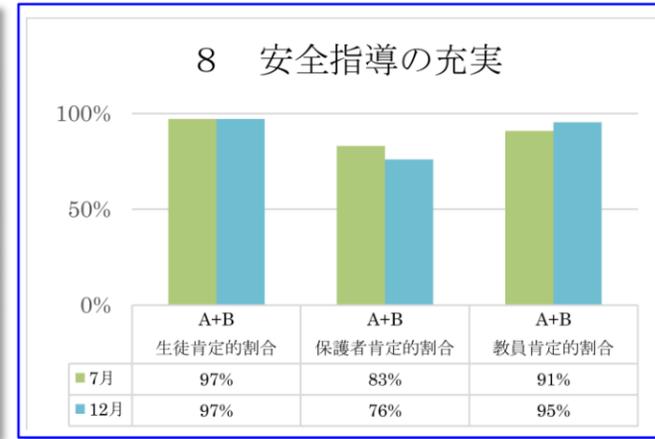
【分析】
生徒4ポイントの上昇があった。毎日の学校生活の中で、人権教育や道徳教育は土台となるものである。教員の意識を高められるよう、定期的に研修を行う。



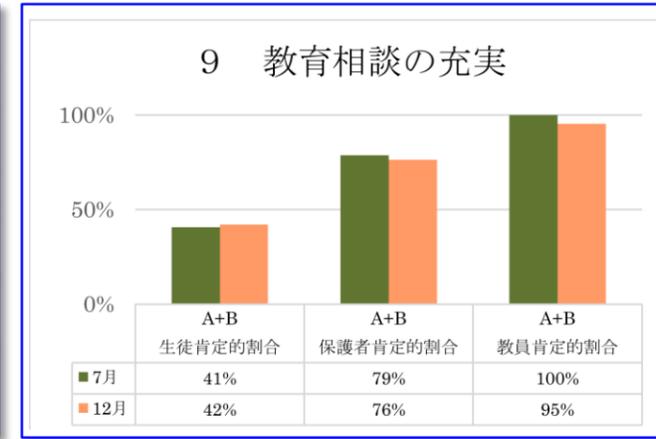
【分析】
進路学習について、生徒5ポイントの上昇があった。生徒は目標を見出し取り組んだ結果である。保護者・教員ポイントは減少しているため達成目標に差があったと言える。



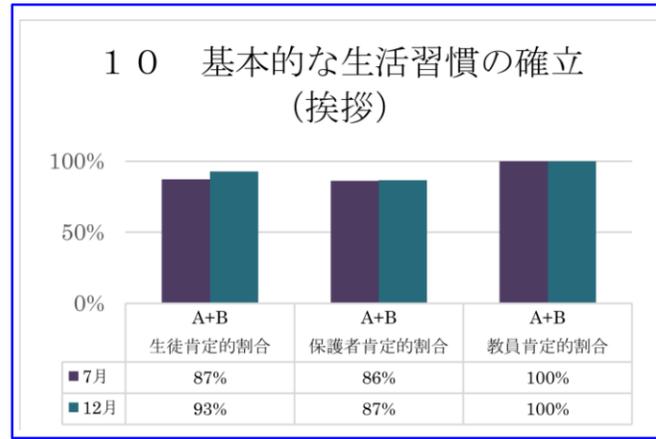
【分析】
生徒・教員と保護者の差は年間を通して30ポイント以上となった。同級生同士のみならず、上級生と下級生の場合も含め丁寧な対応を行う。



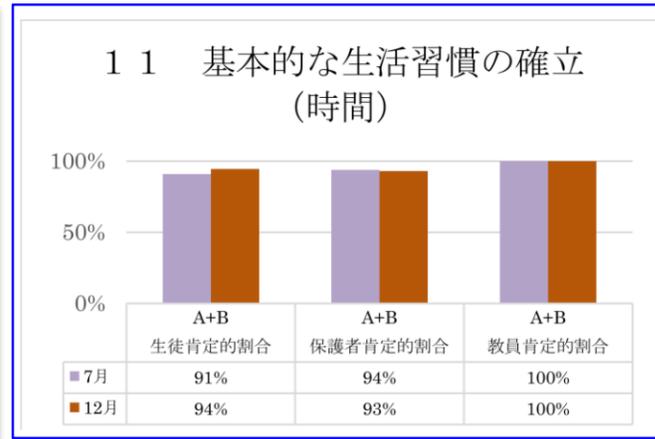
【分析】
生徒ポイントは変わらないものの、保護者ポイントは7ポイントの減である。放課後学習会等による帰宅時間の連絡が遅れたことが原因の1つである。



【分析】
生徒1ポイントの上昇があった。月曜日は河野スクールカウンセラー、火曜日は石川カウンセラー体制で9か月となった。少しずつであるが成果が出始めている。



【分析】
来校された方から「私のことを知らないのに、あいさつがあり、元気ですね。」と聞く機会が多かった。挨拶の文化は、五中の伝統になりつつある。継続が次の課題である。

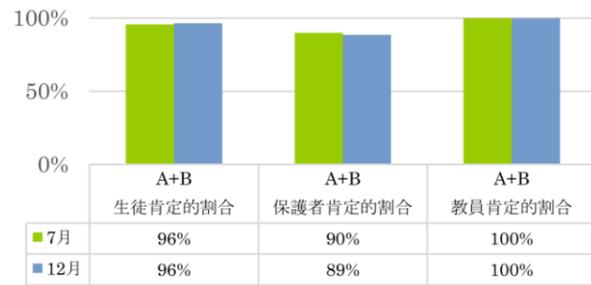


【分析】
極めて高いポイントである。年間を通じ、ご家庭の協力のもと、時を守ることが達成されている。教員も常に時を意識して校務に取り組んだ。五中の教育活動を支える項目である。

【グラフの見方】

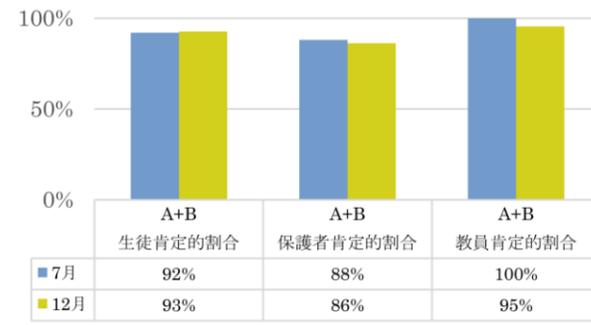
- 単位 百分率(%)
- グラフ上部の数値ラベル 肯定的な回答(AとB)の合計値
A: とてもそう思う。
B: どちらかといえばそう思う。
C: どちらかといえばそう思わない。
D: そう思わない。
△: 情報や事例がないので分からない、判断できない。

1 2 基本的な生活習慣の確立
(公共物)



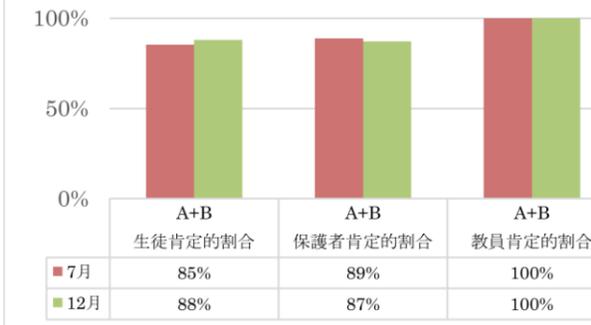
【分析】
年間を通じて高いポイントである。好事魔多し、という。高くとも安心してはいけない。ご家庭での家庭教育の成果ともいえる。小学校で身についた習慣が継続できている。

1 3 自主的な活動



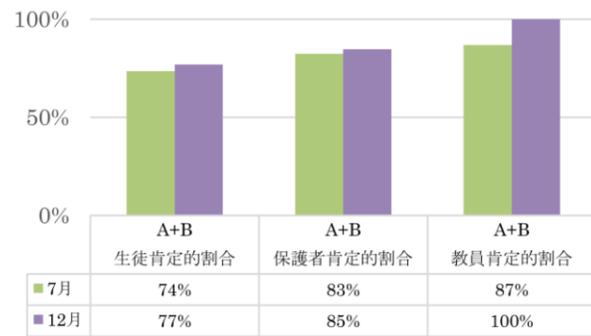
【分析】
生徒は自治活動で自ら思い、考え、行動した。生徒1ポイントであるが向上があった。行動の変化とアンケート結果は合致している。

1 4 環境美化の推進



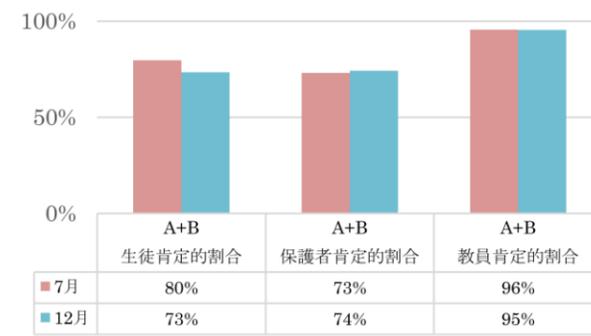
【分析】
年間を通じて高評価だった。12月10日(土)には、地域清掃ボランティアを行い、各地域の方々とも交流ができ、環境美化は校外にも広がった令和4年度となった。

1 5 学校情報の発信



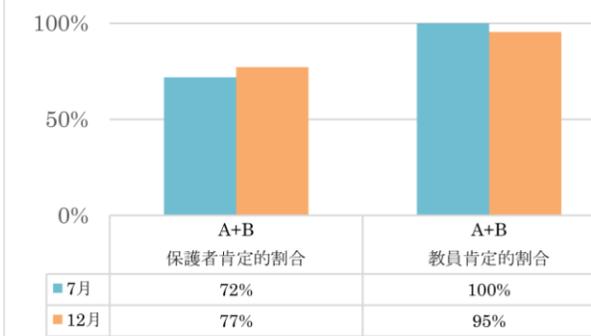
【分析】
生徒・保護者・教員の全対象者でポイントの上昇があった。学級だより、学年だより、学校だよりを発行し続けた結果が高評価につながった。今後も情報の発信に努めていく。

1 6 教育活動全体(組織)



【分析】
組織について、生徒と保護者の見方は一致している。学校としてまだ取り組むべきことがあるのでは、と問われている。年度末アンケートなどを元に組織の改善を行う。

1 7 学校経営方針の認知



【分析】
保護者5ポイントの上昇があった。今年度から校長が替わり、学校経営方針が少しずつ認知された結果である。合格にはまだまだであり、「光る五中」生の育成に全力を注ぐ。

・7月と12月のデータを比較した際に、保護者最大7%の差が出ています。
今回のように順位を検定する方法は、マン・ホイットニーのU検定があり、統計処理を行いました。結果、有意差は見られませんでした(検定結果: P > 0.05)。
各対象の7月と12月の比較で統計上、差はなかったことを示しています。
要するに、7%程度では、向上した、減少した、と言い切ることはできなことを示しています。
五中に限らず、学校評価アンケートでは統計上の処理によらず、各項目の%に注目して検証をしたことが良いこととなります。よって、各項目の%に注目して検証を試みました。